

新日本歩く道紀行 100 選シリーズ『見どころ紹介』

道の名称 神話のまち“美々津”「神武天皇お舟出の地」を歩む道				
No.	ポイント名称	紹介説明（120文字程度）	距離	時間
起点	日向サンパーク	地域の交流拠点であり、温泉館「お舟出の湯」やレストラン「潮音」、オートキャンプ場、テニスコート、グランドゴルフなどのアウトドア施設が一堂に会する総合レクリエーション施設。	0 km	0 分
1	鹿島神社 (カシマ)	「神武天皇が美々津を出港してすぐ、フグの大軍が行く手を遮り、そこに神武天皇が浜石にヤジリで祈願文を刻み鹿島神社へ奉納するとたちどころにフグが退散した」という伝説があり、この故事にならい、鹿島神社では浜石に願い事を書いて奉納する風習が今も残る。	0.2 km	5 分
2	十字岩 (じゅうじいわ)	日向市の新しいパワースポットで、近くの岩場の上から見ると、5mほどの巨石が4つ「田」の字をかたどって並んでおり、中央の「十」の線軸が東西南北の方向を示している。「十」字の中央に“気”が集まっていると話題になり、市内外から観光客が訪れる。	0.1 km	7 分
3	フクトヶ浦 (ふくとがうら)	毎年、5月～7月にかけてクサフグの大群が産卵のためにやってきて、一面“フグ”だらけになる奇怪光景がみることができる。また、この海岸は打ち寄せる波の音と波に洗われて転がる砂利の音とが絶妙で、高いヒーリング効果をもたらすと言われている。	0.1 km	2 分
4	権現崎公園の照葉樹林 (ごんげんざき)	宮崎県の指定天然記念物であり、スダジイの大木郡をはじめ、マサキやトベラなど貴重な植物の群生地である。また、公園の中間にある広場からは日向灘を一望できる絶景スポットがある。	1.7 km	32 分
5	湊柱神社 (みなとはしら)	水戸（＝ミナト）を守る神が祀られ、神武天皇が東遷する前に対岸の立磐神社とともに、河口の二社で、出港前の修祓（＝身を洗い清めること）の儀を執り行ったとされる。	0.2 km	5 分
6	道路橋「美々津橋」 (みみつばし)	建築家・増田淳氏の代表作で、九州唯一のスパンドレル・ブレースト・アーチ橋であり、現存する7番目に古い橋。また、石橋でなく大変めずらしいスチール橋であり、近代土木遺産として注目されている。	2.5 km	6 分

新日本歩く道紀行 100 選シリーズ『見どころ紹介』

7	美々津町並み	江戸時代からの町並みそのまま残る、風光明媚な場所。また、古事記にある「神武天皇御東遷」の舞台であり、神話の物語が今もなお語りつがれている。 この地区名「立縫」は、天皇東遷の際の出発のおり、天皇が立ったまま衣服のほころびを繕わせたことから、「立ち縫いの里」と呼ばれ、そこから「立縫」となったとされる。	0.5 km	30 分
8	立磐神社 (たていわじんじゃ)	海の神・住吉三神を祀り、神武天皇が航海の安全を祈願したと言われる。境内には天皇が腰掛けて指示したという「御腰掛岩」があり、ご神体となっている。 また、本殿の後ろにある巨大な立石は、神武天皇に東遷を進言した※塩土翁とも言われている。 (※シオツチノオジ=潮つ霊、航海の神)	0.1 km	5 分
9	日本海軍発祥の地 記念碑	神武天皇が軍をつくりお舟出した地であることから、昭和 15 年に皇紀 2600 年記念事業として建立された。また「日本サッカー協会」のエンブレム(八咫鳥)をデザインした、故・日名子実三氏がデザインを行った。	0.1 km	2 分
10	八坂神社 (やさか)	美々津に到着した神武天皇が、この場所に行宮を造り、出港までの住まいとしたとされる。境内には、天皇が掘った井戸「神の井」の跡がある。	0.1 km	2 分
11	美々津縣廳跡の石碑	第 1 次府県統合により延岡県、高鍋県、佐土原県を統合し、日田県のうち旧富高県、人吉県のうち臼杵郡椎葉地方 4 村の移管を受けて美々津県が発足。県庁は児湯郡美々津町に設置された。 その後、宮崎県が発足し、美々津県が廃止されたが、その跡地に「美々津縣廳跡」の石碑が建てられている。	0.2 km	2 分
12	七ツ礁 (ななつばえ)	神武天皇が東遷する際に、七ツ礁の間をとおって行き、戻ってこなかったことから、地元の漁師は、間を通過して漁に行くことはないといった伝説がのこる。また、スタートからゴールまで道の各所で違った角度で見え、その“違い”も醍醐味の一つ。		
終 点	日向サンパーク	上記の同じ	2.2 km	22 分